令和　年　月　日

令和　年度　スマート農業技術の設備等導入支援事業　事前審査申込書

令和　年度スマート農業技術の設備等導入支援事業について、私（　氏　名　）は、次の補助に対する事前審査を申し込みます。

１　申込む補助の種類（チェックをお願いします）

□　環境測定装置（　　　　　　　　　　　　）

　　　測定項目（日射量・温度・CO₂・湿度・土壌環境（水分量、EC等）・その他（　　　　　））

□　高度な環境制御による栽培施設システムの導入（　　　　　　　　　　　　）

☑　環境制御機器（㈱○○　細霧冷房システム○○（メーカー、商品名、型番等）　　　）

　　・すでに導入している環境測定装置（　　　　　　　　　　　　　　）

　　　測定項目（日射量・温度・CO₂・湿度・土壌環境（水分量、EC等）・その他（　　　　　））

※細霧冷房装置の場合は記入の必要なし

　□　その他（　　　　　　　　　　　　）

２　添付書類

　　☑　事業計画書

　　☑　別紙

　　☑　参考見積書の写

　　☑　カタログ等の写し

　　☑　実施場所が分かる位置図

　３　過去の補助事業の実施

　　　これまでに、農業振興に関する補助事業を受けたことが、☑ある　　□ない。

　　これまでに受けた補助事業の内容

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 補助者 | 時期 | 内容 | 補助額 | その他 |
| １ | 国・県・市・その他 | H23.9 | トラクター | ○○○，○○○円 |  |
| ２ | 国・県・市・その他 | H30.9 | 環境測定装置 | ○○○，○○○円 | 添付資料参照（○号棟に設置） |
| ３ | 国・県・市・その他 |  |  |  |  |

※スマート農業技術の設備等導入支援事業に限らず、ご記入ください。

※過去に今回の申込みと同様の設備等を導入している場合は、その仕様及び導入地の位置図を添付してください。

※表が足りない場合は、別に記載してください。

令和　年度　スマート農業技術の設備等導入支援事業　事前審査申込

事業計画書（細霧冷房システムの例）

|  |  |
| --- | --- |
| 補助事業の種類 | 細霧冷房システムの導入補助 |
| 事業の実施場所及び面積 | 横浜市○○区○○町567　480㎡ |
| 計画事業量 | ○○○（商品名）ノズル及び配管一式、ポンプ（○○）、給水タンク○○コントローラー |
| 計画事業費 | ○○○、○○○円 |
| 事業導入する営農内容 | 温室（○○）の栽培※別紙に詳細を記載 |
| 事業導入により得られる（予想）効果 | ○○の栽培において、近年の夏期の異常な高温により、生育がダメージを受け、生育が遅れる、大きく生長しないなど生産に影響がでている。細霧冷房を設置することにより、温室内の温度を下げてダメージを緩和し、収穫量を増加させる。 |
| 補助事業の着手及び完了の予定期日 | 着手予定　令和　年11月○日　又は補助金交付決定日以降完了予定　令和　年２月○日 |
| 摘要 |  |

（別紙）

１　事業導入する営農内容

（１）年間スケジュール

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 月 | ４ | ５ | ６ | ７ | ８ | ９ | 10 | 11 | 12 | １ | ２ | ３ |
| ○○栽培 |  |  |  |  | ・は種 | × |  |  |  |  |  |  |

（２）導入予定の設備等の特長

　　①細霧能力

粒径　○μm　／　噴霧量　　○リットル／ｈ・10a　／　○方向　／　○ｍ（無風時）

　　　○流体　／　ポンプ能力○○○

　　②噴霧コントロールの方法

　　　センサーを組み合わせた、自動制御コントロール

　　③ノズル対策

ボタ落ち防止対策、ノズルの目詰まり防止対策あり

　　④その他

上水を利用

（３）導入予定の設備等を選定した理由

　　　ミストの径が、○μmと小さく、また、温室内全面に均等に行き渡るように、ノズルの設置密度や設置角度が考慮されている。ミストが蒸発する前に次の噴霧が生じないように自動制御でコントロールされ、植物が濡れることはないため、病気発生の心配がない。また、○○が工夫され、保守が容易である。

（４）事業導入により解決が期待される課題

　　　これまでは経験による勘に頼って、トマトに必要な温度・湿度を設定し、栽培してきたため、安定した栽培が難しかった。

事業で導入するシステムを活用することにより、計測項目が増えて、計測もリアルタイムになるため、トマトの生長にとって、よりふさわしい環境をつくることができるようになり、生長が安定し、収量の増加が見込まれる。

（５）事業導入後に行う記録の方法

　　①温度、湿度等の環境に関する記録

　　　例１）温度計・湿度計を人が見て記録。

　　　例２）温度・湿度・CO2濃度・光量について、センサーを持っており、パソコンとつないでリアルタイムでの記録が可能。

　　②生育等に関する記録

　　　例１)生産履歴記帳、出荷伝票（収量）による記録。

　　③作業効率等に関する記録

　　　例１)作業日誌（播種日・定植日・肥料・収穫開始・収穫終了・片づけ・消毒）

　　④その他の関連事項に関する記録